

第2回海陽町観光施設のあり方検討委員会
議事録

日 時：令和6年2月27日（火） 13：00～15：00

場 所：海陽町役場海南本庁舎 3階 大会議室

出席者：委員8名中8名出席（うちウェブ参加2名）

事務局：海陽町観光交流課 戎谷課長、森主幹、大久保課長補佐、濱田主事

■その他事項

（田口委員長）

事務局からその他事項の説明をお願いします。

（事務局・森）

（参考資料1「第1回観光施設のあり方検討委員会の意見概要」を説明）

（田口委員長）

現在、前回議事録がついてないので、概要をつけていただけてますがもし皆さんの中で、発言したんだけど、取上げられてないものがないか、確認をしていただきたいんですがいかがでしょうか。

（各委員）

（意見なし）

（田口委員長）

はい、ありがとうございます。

■議事1 適正規模や運営方法を検討するため必要となる各種資料について

（田口委員長）

事務局から議事1「適正規模や運営方法を検討するため必要となる各種資料について」の説明をお願いします。

（事務局・森）

（資料1「インバウンド客の状況について」を説明）

(田口委員長)

資料 1、何か御質問ある方いらっしゃいますか。

(各委員)

(意見なし)

(田口委員長)

続いて資料 2 を事務局からお願いします。

(事務局・森)

資料 2 「経営状況について」を説明

(田口委員長)

最後の二つ（委託料内訳・支払手数料内訳）は年間でいいんですよね。

(事務局・森)

1 年間になります。

(山田委員)

専門家の方から貸借対照表の評価、論評をいただきたい。

(真鍋委員)

事務局が分析したとおり債務超過で厳しい状況だと思う。

資料では漁火の借入金の状況が見受けられるが、借入を行う上でなにか保証、担保は設定されていますか。

(事務局・森)

無補償となります。漁火がホテル運営のために借りており、町の保証は想定をしておりません。

(山田委員)

すごい状況ですね。

(田口委員長)

そういったこと（保証なしで借入）できるんですね。

(真鍋委員)

保証や担保の設定なく借入を行うことができるのは町の関与がある「第三セクター」による運営であることが推測できます。いずれにせよ運営の評価としては「厳しい」とさせていただきます。

(田口委員長)

続いて資料3についてお願いいたします。

(事務局・森)

資料3「宿泊施設（NASA・リビエラ）関連町費支出の状況について」を説明

(山田委員)

リビエラのESCO事業について概要とその効果について伺いたい。毎年約1000万が町費から支出されていて、今、H25からR4までの累計で1億の支出がある状況。いつまでこれを払い続けるのか、それに対する効果の説明は。

(事務局・森)

まず概要からですが、こちら町でH24年に、光熱水費の削減と、CO₂、環境保護、環境への配慮を目的として、環境省の補助金をもらって関連する機器を入れております。環境省の「小規模地方公共団体対策技術率先導入補助事業」を使った補助率が2分の1の事業でございまして、今までだったら、電気ではなくて灯油を使ったボイラーで、お湯を沸かして、使っていたっていうのはあるんですけども、環境保護の観点からも電気で沸かすというようなところに対して補助金を頂けるといような事業が当時ありまして、改修の総事業費2億8500万程だったと思うんですけども機械を入れたものとなります。

(事務局・戎谷)

光熱費の削減額としまして、おおよそ1000万から1100万円ぐらいで毎年多少上下します。それで町への利益としましては大体100万程度。町の削減額が100万ぐらいあるということで、光熱費全体の削減、金額としては1000万から1100万程度。これについては一応ですね電力会社のほうから、毎年、その実績報告頂いております。

(山田委員)

設備を2億ぐらいかけての電気で沸かすようなことをしたんやね。結果が1000万削減に

なって 100 万町に利益が出たと。

(山田委員)

H24 年のときは数字出てないんですけども、この、何だ、水道光熱費、に関しては 4000 万から 5000 万ぐらいかかってたんですか。数字出てませんけども。

(事務局・森)

すいません H24 年の数字っていうのがちょっと今整理しておりませんで、H24 と比べて H25 はどうだったのかっていうところはちょっと今数字持ち合わせてございません。

(山田委員)

それがないと、今の戎谷課長が言う 1000 万、減額なったんで町に利益 100 万利益もたらしたということが証明できないんだよね。この数字がないと。ということは、今まで議員さんらもこういう説明でこういう大きな事業を受けてきたじゃないですか。これ今見たら、E S C O 事業で引っ張ってますよ。

(横委員)

平成 24 年度のときには多分灯油のボイラーだったと思うんです。そのときに灯油が多分 100 円超えて、一時期かなり高騰した時期があってそのときに、電気のほうがまだ、料金的に安いということで、電気のボイラーにしたほうが C O₂ の削減も図れるし、なおかつ、経費的にも下がるということで、確かに山田委員がおっしゃるように、H24 年から H25 年にかけては、たしか、500 万以上の多分削減額は実際数字としてはあったと思います。議会にも報告した中で、その当時に、もともと、漁火に指定管理料として 500 万ぐらい、そもそも指定管理料を払ってた部分があったんで電気代が削減されるからということで、その当時に指定管理料をゼロ円にした経緯がございます。当時、電気のほうが安かったんで、費用対効果として、入れた中で 500 万ぐらいの削減はあった。10 年余ってやっている中で、その当時の金額がずっと同じように推移してきたら、その効果はあったと思うんですが、今現に、また灯油も上がってますし電気は高騰しているので、最終的に、当時の時からどの程度導入したことによっての削減効果が出ているというところは、はっきりとした数字は出てないです。金額的な数字は報告書としては、あくまで当時の使用料の数字を用いた場合には効果が 100 万円ぐらいあるという、数字としての効果はあるということで御理解頂ければと思います。毎年電気代も変わってくるのでどれほど出るかいうところはちょっと数字にはっきり出ないところがあると思います。補償制度は効果が出なかった場合には多分補償ということはあると思います。

(事務局・戎谷)

今、横委員が言われたように灯油を使ってました。もともと、それを電気、ボイラーに変えたというところで、電気代は 600 万ほど上がりましたが、灯油については 1500 万ほど削減されているというところで、1 番大きいのはその差ということになります。トータルとしたり多分比較したら灯油と電気代の増減、金額に掛けたら効果は出てると思うんですけど、それはあくまで、お客さんが多い少ないによって変動する部分もあるので、微妙なところあるんですけど、確実に電気代、光熱費は削減はされているということで御理解頂ければと思う。

(田口委員長)

恐らくここの経営努力としてのその取組が、10 年以上前だったということで、その努力の結果がどうなってるのかっていうところの負担金になります。

(山田委員)

町が払う負担金は延々続くんですか。

(事務局・森)

令和 9 年までとなります。

(田口委員長)

ただ、この施設の負担になっているということですね。

(事務局・戎谷)

負担分、支出を引いて町の支出が 100 万少なくなっているということです。

(田口委員長)

だから支出総額はちょっと落ちていると。

(事務局・戎谷)

三セクは、1000～1100 万削減されて、町はその保証分削減されているため、100 万削減されている。

(山田委員)

町の支出が減ったと、そういう理解でよいのか。

(事務局・戎谷)

町も 100 万減ったかわりに、漁火の方も 1000 万削減されている。ただし町がその分 900

万余り ESCO 事業での負担金がいりますので、負担金を引いたとしても、100 万円ぐらい負担は少なくなっているということです。

(田口委員長)

関係がいくつか複雑にあるので、要は町としては 100 万円ぐらい支出が減ってるんだけど、漁火としてはもっと支出が減ってて、委託料を減らして、委託料を減らしても町としては、委託料を減らしたってことはその分利益ですよね。それも含めて 100 万円ですか？

(事務局・戎谷)

1000 万削減されるということで、その分落としている。これを計算し、全部でトータルで 100 万ということです。

(田口委員長)

続いて資料 4 を事務局からお願いします。

(事務局・森)

資料 4 「今後の維持・修繕見込額について」を説明

(田口委員長)

これは、売却あるいは廃棄しない限りにおいては、基本的にどういう運営形態であり運営を続ける以上は、行政として負担をしていくというものです。

(田口委員長)

続いて資料 5 を事務局からお願いします。

(事務局・森)

資料 5 「アンケート調査と経済波及効果について」を説明

(田口委員長)

(旅行者の海陽町内の消費額に関して) 消費額は、結構厳しい数字が出ております。例えば 14 ページ、観光庁が出しているデータ(観光庁・旅行・観光消費動向調査の国内旅行の一人一回当たりの旅行支出額)だと、55,094 円から、宿泊費を引くと約 4 万 4000 円。それ

に対して、この NASA とリビエラに関してはほとんどが宿泊費になっているということは、地域にほとんど還元できていないという現実があるので、この厳しさはなかなか大きいなというふうに思っています。

それがトータル（令和4年度の宿泊者で単純試算した宿泊費以外の町内消費額見込み）で出していただいてですけど、例えば NASA の場合は約 63,000 千円。経済が回ってないとすると、支出に対して余りにも少ないって話は現実問題としてあるので、これをどうするかってことあるかなと思います。ここはただ現実ですので、ひとまずは受け止めるということだと思いますが、他の委員いかがでしょうか。

（青木委員）

サンプル数が少ないので一概にはいえないところですが、「また来たい」という意見が8割以上というのは結構高い数字だと思う。認知されていないけれども行ってみたら満足してまた来たいと思ってくれた方が多いということで、ポテンシャルを有しているということではないか。宿泊施設への満足度が高く、飲食、土産物、観光施設の満足度が大きく下がるという傾向は、逆にこの部分をてこ入れするとすると更に良くなるということでもあるので、課題がはっきりしていると感じました。

（田口委員長）

これはアンケートで記念品渡してるんですよね。それがちょっとアンケートの結果に影響出ちゃうことがあって、いいことしかないんですよ。いや、だから今の確かにリピーターとする可能性はあるんですが、ただ実際はリピーターの割合がそれほど多くないので、この回答は少し、バイアスがある回答になってるんじゃないかとは思っています。普通に宿泊室に置いてあるようなアンケートだったらいんですけど、記念品渡しちゃったりするとそこで嫌なことは書かなくなっちゃうんですよね。だからちょっとその辺りはバイアスがかかるかなと思います。

（青木委員）

質問の仕方は良いと思うので、続けてやっていけば見えてくるものもあると思う。

（田口委員長）

今回の資料だけでなく、継続的にやると。施設に対する評価は確かに青木委員おっしゃるとおり出てくると思います。

■議事2 サウンディング調査結果及び今後の観光施設運営の選択肢について

（田口委員長）

それでは今日の議事でいう1番目のところです。前回ちょっと情報が足りないというこ

とで、かなり事務局頑張って色々データを出してくださっているかなと思います。ただこれ論評してもしょうがないところがあって、これが現実という中で今後どうするかっていうのが次の議論になるかと思います。それでは議事（２）のところを事務局、説明頂ければと思います。

【以降、海陽町観光施設のあり方検討委員会設置要綱第６条第５項但書に基づき非公開】